

東邦医学会例会内 CPC 報告**肺癌治療中に胸水増多により治療に難渋した 1 例**

臨床提示：関谷宗之（内科学講座呼吸器内科分野）

病理提示：定本聡太（病院病理学講座）

司 会：名取一彦（血液・腫瘍科）

肺癌に対する化学療法の経過中に非結核性抗酸菌の癌病巣感染を合併した症例について、レジデントを交えた専門諸家による興味深い議論が行われた。症例は 68 歳男性。肺扁平上皮癌と診断され化学療法を施行した。その後発熱と咳嗽、労作時呼吸困難が出現し、胸部 X 線・CT 検査で左気胸と左胸水貯留を認めた。左胸腔ドレナージで気胸は速やかに改善したが、胸水から *Mycobacterium abscessus* が検出され、同菌による肺感染および胸膜炎と診断した。3 剤の抗生剤による治療を開始したところ徐々に改善を認めた。その後再度発熱を認め、*Mycobacterium abscessus* による肺感染の増悪を疑い再度治療を開始したが改善せず、肺癌の進行も認め永眠された。剖検では肺癌の多臓器転移と腫瘍部内壊死部と胸膜外非腫瘍部に肉芽腫性病変と *Mycobacterium abscessus* と推測される抗酸菌が確認された。

DOI: 10.14994/tohoigaku.2017.64-03-169